

駿河湾から採集されたトゲトゲオナシグソクムシ（等脚目： ウオノエ亜目：オナシグソクムシ科）

Anuropus bathypelagicus from Suruga Bay (Isopoda: Cymothoidea: Anuropidae)

下村通誉¹・杉村 誠²・福地 順¹

Michitaka Shimomura, Makoto Sugimura and Jun Fukuchi

はじめに

オナシグソクムシ科 Anuropidae Stebbing, 1893（等脚目：ウオノエ亜目）はオナシグソクムシ属 *Anuropus* Beddard, 1886 の1属からなる小さなグループである。本属にはこれまで世界から10種が知られる (Boyko *et al.*, 2008 onwards)。日本近海からは3種、トゲトゲオナシグソクムシ *Anuropus bathypelagicus* Menzies & Dow, 1958, タイヘイヨウオナシグソクムシ *Anuropus pacificus* Lincoln & Jones, 1973, ヒイロオナシグソクムシ *Anuropus sanguineus* Nunomura, 1983 が知られる (齋藤ら, 2002)。トゲトゲオナシグソクムシは北海道根室沖および本州北部沖太平洋の水深500–700 mから、タイヘイヨウオナシグソクムシは本州北部沖太平洋の水深0–1,122 mから、ヒイロオナシグソクムシは北海道網走沖の水深600 mからの記録である (齋藤ら, 2002)。著者らはトゲトゲオナシグソクムシを駿河湾の0–180 mから得た。駿河湾からは初めての記録であり、本種の最も浅い水深からの記録である。

材料と方法

採集された個体は生きたまま新江ノ島水族館に輸送された後、飼育展示された。死亡後に80%エチルアルコールで固定・保存した。実体顕微鏡 (Nikon SMZ800) 下で形態観察および種同定を行った。体長は頭部前縁から腹尾節後縁までの長さとし、体幅は胸部の最大幅を計測した。体の各部の名称は下村・布村 (2010) に従った。標本は新江ノ島水族館 (標本番号EA-0515) に保管されている。

結果

ウオノエ亜目 Cymothoidea

オナシグソクムシ科 Anuropidae Stebbing, 1893

オナシグソクムシ属 *Anuropus* Beddard, 1886

トゲトゲオナシグソクムシ *Anuropus bathypelagicus*

Menzies & Dow, 1958

(図1, 2)

材料

未抱卵メス (体長80.48 mm, 体幅45.45 mm)。

2021年4月13日, 駿河湾水深0–180 m (34°53.983N, 138°44.666E), 戸田大型トロール船水八丸, 底引き網。

¹ 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

〒649–2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459

Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, 459 Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649–2211, Japan

E-mail: shimomura.michitaka.5w@kyoto-u.ac.jp

² 新江ノ島水族館

〒251–0035 神奈川県藤沢市片瀬海岸2–19–1

Enoshima Aquarium, 2–19–1 Katasekaigan, Fujisawa, Kanagawa 251–0035, Japan

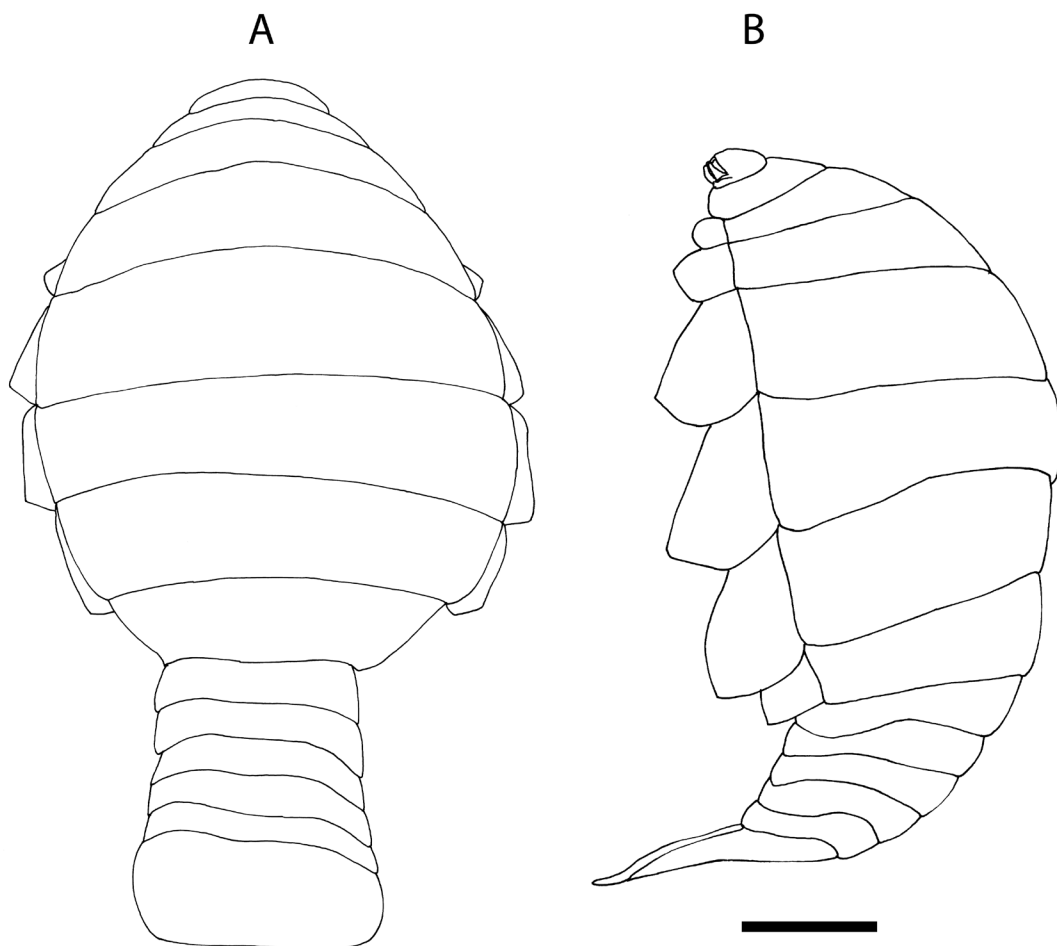


図1. トゲトゲオナシグソクムシ. A, 全体, 背面, B, 全体, 側面. スケールバーは1 cm.

種同定

トゲトゲオナシグソクムシの種の特徴は第5-7胸節の底板が側方に強く張り出す点である(図1, 2C-F)(Gordon, 1958). 今回得られた個体はその点がよく一致するためトゲトゲオナシグソクムシと同定した. 本属の他の9種では底板は側方に強く張り出さない.

考察

トゲトゲオナシグソクムシはこれまでにカリフォルニア沖(タイプ産地)(Menzies & Dow, 1958), サンディエゴ沖(Barham & Pickwell, 1969), 北海道根室沖(Birstein, 1963), 本州北部太平洋沖(斎藤

ら, 2002)から知られる. 本種はディープスタリアクラゲ*Deepstaria enigmatica* Russel, 1967に付着することで知られている(Barham & Pickwell, 1969; Lindsay *et al.*, 2004). トゲトゲオナシグソクムシがクラゲを捕食しているのか, 寄生しているのかなどの生態に関する情報はない. 今回の個体ではクラゲ類に付着していたという情報はないが, ディープスタリアクラゲは北太平洋, 大西洋, 南極海と世界の海洋の深海域に広く分布し, 日本近海からは日本海溝北部の水深669 mと相模湾の水深929 mからの記録がある(峯水ら, 2015).

底曳き網による採集のため, 約180 mの海底から海面までのいずれかでトゲトゲオナシグソクムシが採集されたと考えられるが, 水深の特定はできない. これまでのトゲトゲオナシグソクムシの記録は

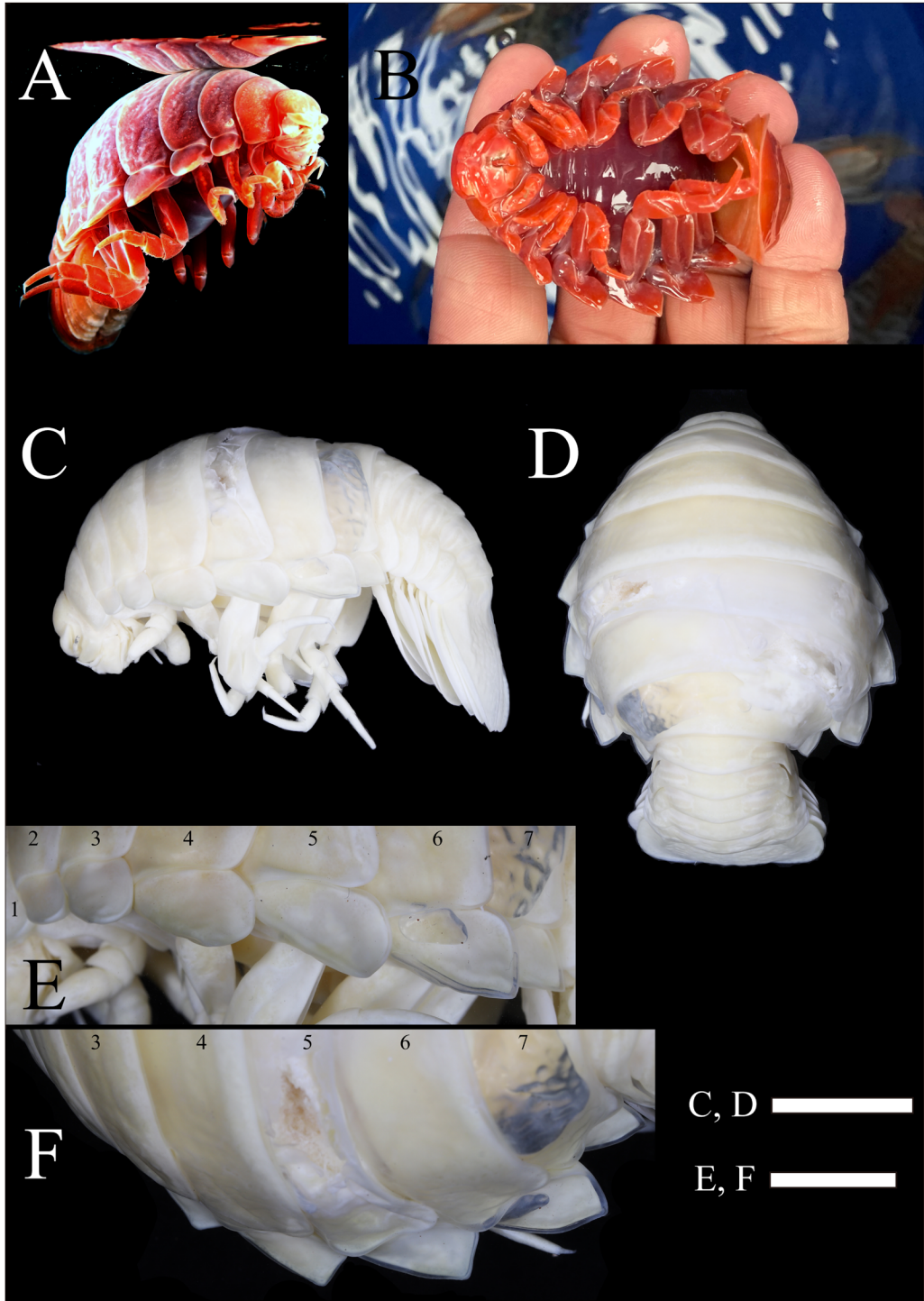


図2. トゲトゲオナシグソクムシ. A, B, 生きている個体, A, 全体, 側面, B, 全体, 腹面, C-F, エチルアルコール液浸標本 (アルコールにより脱色されている), C, 全体, 側面, D, 全体, 背面, E, 第1-第7胸節, 側面, F, 第3-第7胸節, 背面. EおよびFの数字は胸節の番号を示す. スケールバーはC, Dは2 cm, E, Fは1 cm.

水深500–2,976 m (Kensley & Chan, 2001; 齋藤ら, 2002)であったことから, より浅い水深にまで生息していると考えられる。しかし, リュウグウノツカイ *Regalecus russelii* Cuvier, 1816やダイオウイカ *Architeuthis dux* Steenstrup, 1857のように何らかの理由で本来の生息水深を外れて浅い水深にまで到達した可能性もある。

今回得られた個体は新江ノ島水族館の飼育水槽の中で19日間生存した。終始水面近くに浮いている状態で時折動いては水槽内の障害物につかまる様子が観察された。飼育期間中, ミズクラゲ *Aurelia aurita* (Linnaeus, 1758)を与えたがつかまる様子や摂餌は観察されなかった。

これまでに生きた個体や新鮮な個体の写真が論文中で示されている種はタイヘイヨウオナシグソクムシのみであった。本種は赤い体色であることが判明している (Kensley & Chan, 2001)。また, ヒヒロオナシグソクムシは論文中で写真こそ示されていないが, 赤い体色であることが記述され和名もそれに因んでいる (Nunomura, 1983)。今回得られたトゲトゲオナシグソクムシの体色はこれらの種と同様に赤色 (図2A, B) であり, 本属共通の特徴である可能性がある。

トゲトゲオナシグソクムシは稀にしか採集されない種であることから生物学的情報が極めて少ない。小さな情報でも徐々に集積して報告し, 本種の水平・深度分布, 生活史, 生態などを明らかにしていく必要がある。

謝 辞

貴重な個体を提供くださった水八丸の水口敬三船長に感謝申し上げます。

文 献

- Barham, E. G., & Pickwell, G. V., 1969. The giant isopod, *Anuropus*: a scyphozoan symbiont. *Deep-Sea Research*, 16: 525–529.
- Boyko, C. B., Bruce, N. L., Hadfield, K. A., Merrin, K. L., Ota, Y., Poore, G. C. B., Taiti, S., Schotte, M., & Wilson, G. D. F. (Eds), 2008. onwards. World Marine, Freshwater and Terrestrial Isopod Crustaceans database. Cymothoidae Leach, 1818. Accessed through: World Register of Marine Species. Available from <http://www.marinespecies.org/aphia.php?p=taxdetails&id=118274>. Accessed 2022-05-20.
- Beddard, F. E., 1886. Report on the Isopoda collected by H. M. S. Challenger during the years 1873–76. Part 2. Report of the Voyage of H. M. S. Challenger, 17: 1–178.
- Gordon, I., 1958. Comparison of *Anuropus branchiatus* Beddard and *A. bathypelagicus* Menzies & Dow. *Annals and Magazine of Natural History*, Ser. 13, 1: 7–13.
- Kensley, B., & Chan, T.-Y., 2001. Two species of deep-sea flabelliferan isopods from Taiwan (Crustacea: Peracarida: Aegidae, Anuropidae). *Journal of Natural History*, 35: 481–496.
- Lindsay, D. J., Furushima, Y., Miyake, H., Kitamura, M., & Hunt, J. C., 2004. The scyphomedusan fauna of the Japan Trench: preliminary results from a remotely operated vehicle. *Hydrobiologia*, 530/531: 537–547.
- Menzies, R. J., & Dow, T., 1958. The largest known bathypelagic isopod, *Anuropus bathypelagicus* n. sp. *Annals and Magazine of Natural History*, Ser. 13, 1: 1–6.
- 峯水亮・久保田信・平野弥生・ドゥーグル・リンズィー, 2015. 日本クラゲ大図鑑. 平凡社, 東京, 358 pp.
- Nunomura, N., 1983. A new species of the family Anuropodidae (Crustacea: Isopoda) from the Okhotsk Sea. *Bulletin of the Toyama Science Museum*, 5: 69–73.
- 齋藤暢宏・蔵田泰治・李雅利, 2002. 本州沖太平洋から採集された中・深層漂泳性等脚類オナシグソクムシ属 (甲殻上綱・等脚目・オナシグソクムシ科) について. *日本プランクトン学会報*, 49(2): 88–94.
- 下村通誉・布村昇, 2010. 日本産等脚目の分類 (1). *海洋と生物*, 32(1): 78–82.